

---

---

**特集：緩和ケア病棟の開設に向けて**

---

---

**巻 頭 言****Special Topics · Start of Palliative Care Unit in Niigata Cancer Center Hospital  
Preface**

佐藤 信昭

Nobuaki SATO

緩和ケアは「病を抱える患者さんやそのご家族一人一人の様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」である。疾患に焦点を当てた治療だけでは、疾患や治療のために生じる全人的な苦痛に対応できない。全人的な苦痛を取り除くことで、患者さんや家族が生活や体調を維持できるだけでなく、患者さんが本来持っている力や可能性を引き出し、治療やケアを受けられるようになる。緩和ケアは全ての医療の基本であり、それを行わないという選択肢はないともいえる。

がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指すことを全体の目標とする第3期がん対策推進基本計画にはがん予防、がん医療の充実、がんとの共生の三本の柱がある。がんと共に生きるために、がんと診断された時からの緩和ケアの重要性はますます高まっている。

当院では、平成21年4月に緩和ケア科が開設され、平成27年4月には緩和ケアセンターとして体制が強化された。さらに、この度、待ち望んでいた緩和ケア病棟が新たに開設されることとなった。当院の緩

和ケア病棟では集中的に症状を緩和することを目的としている。入院中は積極的な抗がん治療（手術・化学療法・根治的放射線照射）を実施しないが、苦痛の緩和と生活の質QOL、日常生活動作ADLの改善のために補液・抗生剤投与・緩和的放射線照射などを行う。

がん患者の全人的な苦痛を評価し、対応するためには多くの職種の間わりが必要である。緩和ケア科の医師や認定看護師らがチームとして症状をコントロールし、心身両面のつらさに対応する。緩和ケアチームの活動が緩和ケア病棟から、院内に留まらず、地域、さらに他県へと繋がることが望まれる。

新しい緩和ケア病棟では、先進的で質の高い緩和医療に関する研究の実施も期待される。未来の緩和ケアを担う医師や看護師などの多職種の人材を育成するためにも積極的に活用したい。新潟県内に緩和ケアがさらに普及し、患者さんが住み慣れた地域で緩和ケアを受けられるようになるために、当院の緩和ケア病棟が貢献できることを心から願っている。